



広報チームは、鳴瀬川総合開発事業及び関連する地域の情報を様々なメディアを活用し「親しみやすく」「わかりやすく」広報することを目的に令和2年6月に鳴瀬川総合開発工事事務所の職員で結成したチームです。

私たち広報チームは流量観測取材してきました。調査業者の方に説明を受けながら体験してきたので、今回はそのレポートをお届けいたします！



今日は流量観測を行います。

はい。
川を流れている水の量を調べる
ことです。
流量を把握することは、河川の
整備計画を立てたり管理を行う
うえでとても重要なことです。

りゅうりょうかんそく？



どうやって流れる水の量
を調べるの？

○流量観測の種類と方法

流量観測は2種類あります。大雨などで洪水が起きているときに行う**高水（たかみず）流量観測**と月1回程度平常時に行う**低水（ていすい）流量観測**があります。

今回は低水流量観測の方法について説明します。

・低水流量観測

低水流量観測ではまず、水の速さ（流速）と断面積（※図1）を計測します。

水の速さは流速計で測ります。

どうして？

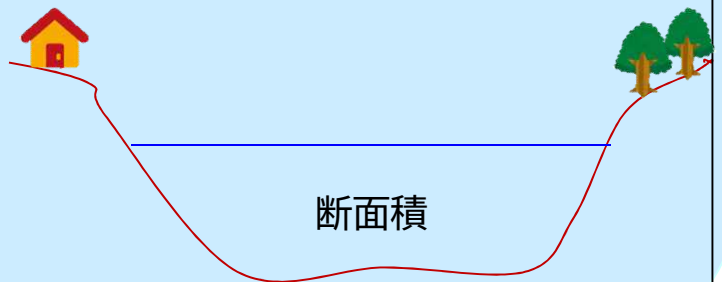
河川の流量は直接計測することができないため、流速を計測し、それに断面積を乗じて流量を算出するためじゃ。

$$(\text{流量}) = (\text{流速}) \times (\text{断面積})$$

流速計 (りゅうそくけい)



断面積 = 川の底（—）と水位（—）で囲まれた範囲



※図1：断面積



今回低水流量観測を行う場所はこちら。
水が澄んでいて川底まで見えてました。



まずは、先ほど紹介した断面積を調べるため
に水位を測ります。



広報チームも流量観測を体験！
流速計をもってドキドキ…！



20秒ほどで数値がでます。
これを2回測定し、平均値を出します。



記録係：あいよ！

計測者：〇m！

記録係は、読み上げられた数値を野帳に記入します。
川の幅や目的にもよりますが、この場所では10箇所程度調査しました。

【感想】

取材日も暑かったので、水の中に入れることを少しだけ楽しみにしていた広報チーム。
ですが、ヘルメットや救命胴衣をつけ、胴付長靴を履いているため、水の冷たさも感じる
ことなく、非常に暑かったです。暑い中、作業いただいている調査業者さん、いつもあり
がとうございます！

今回は、流量観測の一部始終を紹介しました。広報チームは、
これからも様々な情報を事務所ホームページや、Twitter等で発信していきます！！

twitter Youtube

